

送る言葉

桜の蕾も膨らみ、大地の中にも埋もれていた草花が、光に向かって希望を抱き始めたこの佳き日に、富田中学校を卒業し、それぞれの夢に向かって歩み始める213名の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

この場に立ち、改めて堂々とした先輩方のお姿を拝見すると、この静寂の中に富田中学校を巣立つ覚悟を感じ、胸が締め付けられる思いがします。

思い起こせば、2年前、中学校生活に大きな不安を抱いていた私達を、優しく笑顔で迎えてくださったのは先輩方でした。

先輩方は忙しい日々の中でも、部活動や委員会活動などで力を発揮され、いつも光り輝いて見えました。

特に、榎祭での先輩方の活躍はめざましいものでした。「Believe in our story～思い出はこの瞬間に～」というテーマで、まさに一分一秒を大切にし、予定終了時間ぴったりに終了するという、ほんとうに見事な実行力を目の当たりにできました。合唱コンクールでは、3年生全てのクラスが披露した心を震わせる美しい歌声は圧巻で、その歌声からは仲間との絆、強い信頼が伝わってきました。そして何より、協力することで生まれる達成感や努力して最善を尽くすことの大切さは深く脳裏に刻まれています。

また、部活動でも、時には優しく時には厳しく、何もわからない私達に、丁寧に一から教えてくださいました。最後まで諦めず勝利を掴もうとする先輩方の姿は、私達にとって目標であり、憧れそのものでした。常に強い向上心を持ち、目標に向かって突き進んでいく先輩方と一緒に練習に参加できたことは、私達にとって精神的に成長できる場となりました。

ところで、先輩方はどのような思いで今日という晴れの日を迎えられたのでしょうか。3月3日から臨時休業を余儀なくされ、思わぬ形でこの卒業式を迎えた先輩方の思いは計り知ることはできません。先輩方が卒業されることはとても寂しく、とても不安でもあります。しかし、私達は先輩方がこの学び舎で築いてくださった伝統を、確かに引き継ぎ、より良いものとしていけるよう努力していきます。

先輩方のこれからの道は、私達には想像もつかないような険しい道かもしれません。しかし、先輩方の行く先には、きっと道標となる希望という名の光があるはずです。ゆっくりでも、少しずつでも、自分の夢へと向かって前へ前へと進んで行かれることを信じています。

まだ名残惜しい気持ちでいっぱいですが、これまで多くのことを私達に教え、支えてくださったことに感謝し、新たな世界でのご活躍を心からお祈りし、送る言葉といたします。

今日、式に参加できなかった在校生の思いを、最後にこの言葉に込めたいと思います。

「ご卒業おめでとうございます。」

今までほんとうにありがとうございました。」



令和2年3月13日

在校生代表 二瓶 柚乃